地域おこ 協力隊活動報告

山里暮ら金山の里 大ケ生地域 における

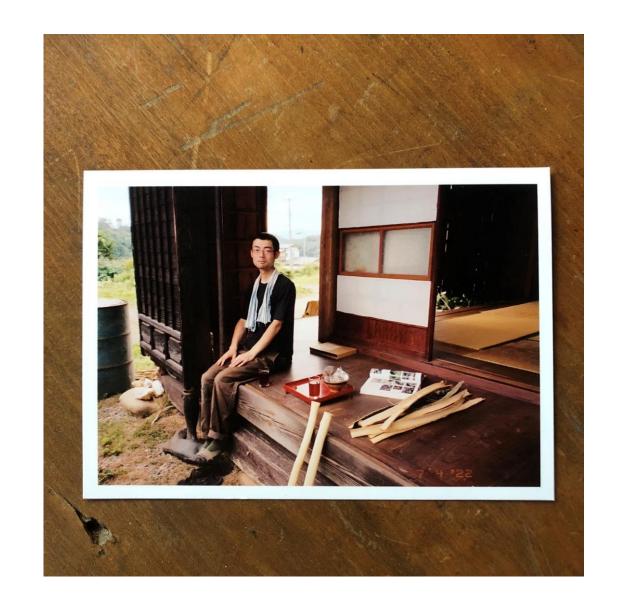
大ケ生地域担当 山代森



森

やましろ

8年ぶりに地元岩手、盛岡市へ。島根県、山形県、東京都で生活。高校進学を機に岩手県を離れ、平成9年生まれ、宮古市出身。





世帯数は合わせて150ほと大ケ生と下大ケ生、ニの上大ケ生と下大ケ生、ニの治会があります。 盛岡市内から車で30分、 盛岡市内から車で30分、 山に囲に離に つの自

50ほど。



から見ることができる。 なして栄えた。現在もその坑道 でいた金山。最盛期は従事者が は山する昭和十七年まで稼働し がを見ることができる。



力隊の活動の一つ。ここでの暮らし、その南部曲がり家。 一つ。し、そのものが協あり、生活の拠点。 築百年ほど

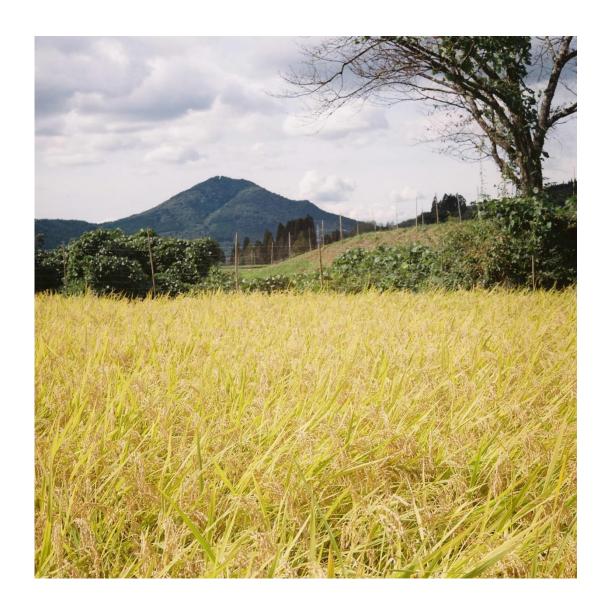


令和三年十月の活 月動 和 四

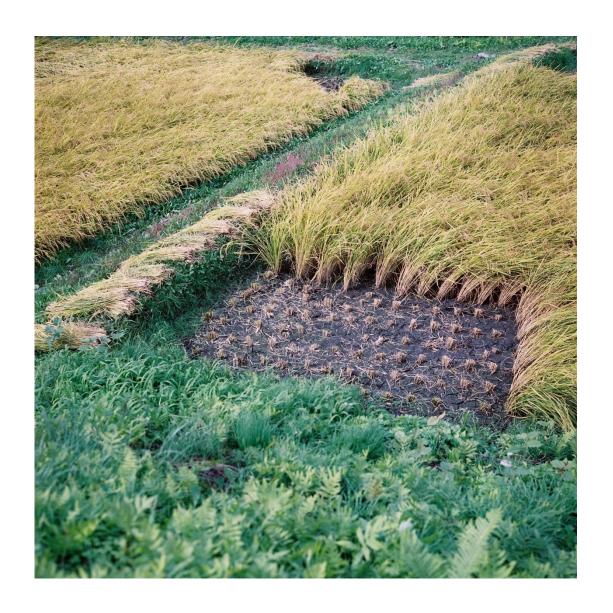


· 農作業支援 · 大ケ生山伏神楽参加 · 樹皮の工芸品製作 · 地域行事参加 · 地域の記録撮催 · 地域の記録撮催 · 地域の記録撮俗 が地元情報誌へ連載 が地元情報誌へ連載

野菜栽培冊子おおがゆう作り



(令和四年十月~一年目の活動)令和五年九月)



雪狩地地映地樹大一農 灯猟元域画域皮ケ人作 り活情の上行の生世業 開動報記映事工山帶支 催 誌録会参芸伏生援 へ撮開加品神活 連影催 製楽支 作援

盛味野冊

岡噌菜子

農く培お

業りがゆ

刈食 生

機安市づ栽お 安全講習



(令和五年十月~現在~令和六年九月)三年目の活動



製楽支

援

雪狩地地映地樹大一農 灯猟元域画域皮ケ人作 り活情の上行の生世業 開動報記映事工山帶支催 誌録会参芸伏生援 △撮開加品神活 連影催載

盛岡市農業まつり味噌づくり

出店

作

餅つき会開催型自動車免許取得

NHK文化センター





の茗事れの お荷をの繁お 手の通農殖米 伝収年家農、 い穫でさ家キ も、教んさュ リてらがり ヤ頂季多、 のく節くり球。ご、ん 根ネとそご 掘ギのれ、 りや仕ぞ牛



のうし や方 かな多



な土 つり大 ど芸神の、ケ大 で能社郷そ生ケ もフで土し高生 公工の芸て舘に 演ス例能大剣は しテ大がケ舞高 ` イ祭伝生 ` 江 四バをわ山城柄 演ルはる伏内念 四踊 得宴郷



冬の農閑期は農佐 るもので、冬の手が らと、樹皮を活用 始める。 夏には樹皮採取の日 プも開催。 用した事が、一角した布が ワ 製ででひ 作き採と ヨッ をたれ段



域に の住 一んで になら るす () ()

幅地備草とはも域、刈公。、地 広の地り民 地域 が方元、館 ると消側役。の防溝員 人団掃会 間へ除の 関の、参 係入登加 や団山、 活な道地 動どの区 の:整の

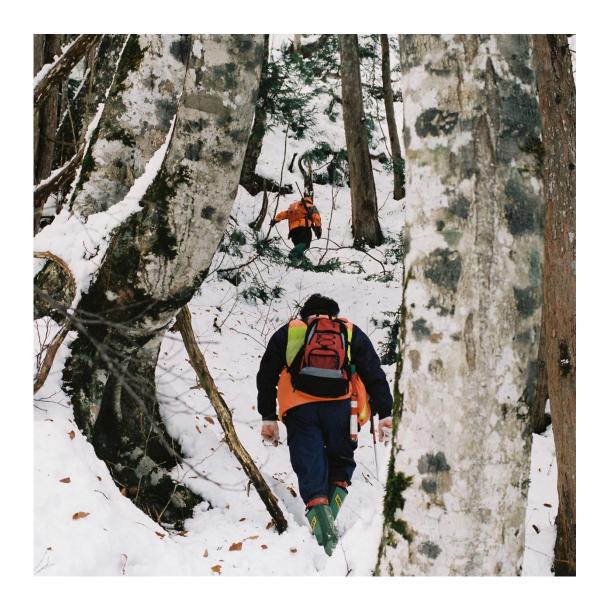
域 行事へ の参加



をマーちメねて、日本とし年んり 。た目しり地のら 映はを一元着か画、上映が任ま 出当初、自己である。 正間を活用し、 自己紹介も兼 ることをテー がることをテー ばキも、



るす無慣重そ郷 景るくの要れ土各 で来あ齢あ大月続 残なる化るケ飾け せく。に一生りら たと全よ方ら、れ らもで、しおてい生さ盆い 今継年活し行る あ承々習の事。



践し罠今目な県。ての年のつ内 調設と秋て外 理置二にいの まか回罠る多 でらの免鹿く 、止猟許のの 一め期を獣農 連差を取害村 のし経得問で 工、験。題課 程解し昨。題 を体、年一と 年 実そ



これまでの活動を通じて



は地決域 次して言えま、 交通の せ便

ま残しし んが良大 と ながっていく と と ここにに にんは 感しのが て姿暮いがら



たら で たこ そ き ち 作 作業をしていると、畑 りこちで縄文土器が出 りこちで縄文土器が出 りこちで縄文土器が出



れでとお戸畑 ま最今な風のかお せ先のり呂水ら米 方っ ブの沢の かての木水前 も豊 燃がやの しか 料、井田



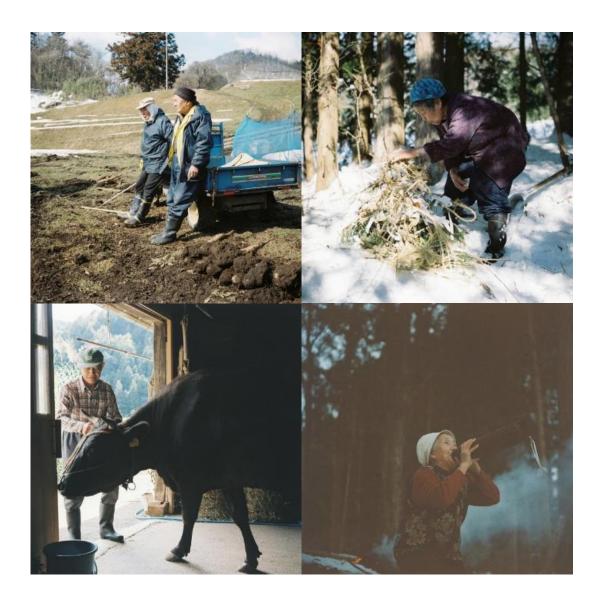
協山身 カのがそしこ、し てと地て いを域た教の気 だえ皆づ い、さけ て助んは いけか自 まてら分 す、沢自



活動期間も残り半年



けこたる樹繊で たの布ワ皮維使古 い秋のしか。わく と考えれ、製品化 れか てきた て露もツ採 い目進プる シ地 まする機 ナ方 キ生 会まり体をし上験 の活 樹の 設たげす 皮中



とにってはし 風、こ一居大は芸 景日の人るケ地能 を々秋ひか生域や写の、とら地の農 真活写りこ域魅産 に動真のその力物 収の展人。皆で、 め中の「一さす歴 てで開で番んが史 い地催すのが、あ ま域を。魅暮そる すの目 力られ暮 。人標 はしらら



いでし残 きのたりまま活活のだ まだ新参ります。 しに地者 て、域で 続こにす けれ根が、てま差、



清聴あり いまし した